

## 毎日新聞社主催 私学公開座談会 第26回

### <多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育が開催されました

11月5日(日) 上智大学(四谷キャンパス)にて、第26回 毎日新聞社主催・日能研協賛「私学公開座談会」が開催されました。このイベントは、「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時どきに適したテーマで開催しています。今年度は「<多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

通算26回目の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、

慶應義塾中等部 部長 山崎俊一先生、英語科 佐藤恵子先生、早稲田中学校・高等学校 校長 瀧澤武信先生、副校長 金子一朗先生 でした。

第1部は講演会形式で、各校の教育理念について、瀧澤校長先生、山崎部長先生それぞれが「多様・未知なる未来を生き抜くチカラをどのように育てているか」ということについて熱く語られました。また、第2部では上記4名の先生がパネルディスカッション形式で「複数ある他の系列校・系属校との違いや特徴について」「創立者の理念をもとにした、3年(慶應義塾中等部)、6年(早稲田中学校・高等学校)の学びの特徴と育つチカラとは?」「大学入試改革についての各校の捉え方」…など、さまざまな切り口から話題が展開されました。

「自由」と「明るい学校」をキーワードとして、3年間という時間の中で「自ら考え、判断して、選択する(進学する高校=自分の人生の選択)チカラ」を育てる慶應義塾中等部。文系・理系とも、大学受験に必要とされない科目であっても一切排除せず、深い教養と高い専門性を身につけ「人格の独立」を確立していく早稲田中学校・高等学校。どちらの学校も、先生は多くの口出しはせず生徒の自主的な学びの姿勢を引き出しながら、自分の人生や未来の社会を切り拓くような生徒を育てることに尽力していることが伺えました。

保護者からは、「大学付属校として、のんびりとした、いわゆる世間とは少し離れたエスカレーター式の学校をイメージしていましたが、どちらも創立者の先見性の高い理念を大切にしながら、新しい未来を創るためのレベルの高い教育をしっかりと行っていることがわかりイメージが変わりました。」「3年間、6年間という違いはありますが、どちらの学校も確固たる教育への考え方と具体的な方法を持ち、自信を持って実践していることがわかり、とても心強く思いました。」などの声が挙がりました。

当日の座談会記事は、11月下旬に毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載される予定です。

ぜひ次月実施の、第27回公開座談会にもご期待ください。

## 第27回 公開座談会 日時：12月3日(日) 14:00~16:15

**対象** 小学1~6年生の保護者

**主催** 毎日新聞社

**協賛** 日能研

**後援** 日本私立中学高等学校連合会

桜美林大学総合研究機構「教育未来研究プロジェクト」

【参加校ご登壇の先生】

- 開成中学校・高等学校 校長 柳沢 幸雄 先生
- 武蔵高等学校中学校 校長 梶取 弘昌 先生

**会場：学習院大学 目白キャンパス 西2号館**



MAP

JR 山手線「目白駅」

徒歩 30 秒

東京メトロ副都心線

「雑司が谷駅」徒歩 7 分

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp